

きほくのまち人探訪

「未経験の林業に挑戦 伐倒の技術を磨きあげたい」



はえもと ひょうこ
榮本 兵吾 さん

今年度、日吉農林公社に就職し、林業の道を志した榮本兵吾さん。

海の近くで育った榮本さんは、林業に従事することは全く想像していなかったそう。興味を持ったのは、林業従事者になった先輩から、仕事の魅力などを教えてもらったことがきっかけです。その後、榮本さんは、日吉農林公社が実施していた見学会に参加。人力だけではなく、高性能林業機械「ハーベスタ」など、見たことのない重機が活躍しており、林業のきつそうなイメージが変わったと言います。

勤務先の農林公社の先輩たちは優し

い人たちばかり。チェーンソーの目立てなど、林業に関する知識を丁寧に教えてもらえるので、未経験でも安心して勤めることができているそうです。

また、林業事業体に就職した人に支援金が給付される「鬼北町林業新規就業者支援事業」の適用を受けた榮本さん。「支援金のおかげで生活にゆとりがもてている」と微笑みます。

これからの目標について榮本さんは「まずは安全のためにも、思った方向に木を倒すことができるように伐倒の技術を磨きあげたい」と意気込んでいました。

ALTの鬼の里Diary ~Ada's編~

「Spring is coming soon」



もうすぐ春ですね。私は、春の足音を見つけることが好きです。

アメリカでは、春が近づいてくるとロビンを見つけることは特別な瞬間です。ロビンとは、日本でいうコマドリのこと。胸が赤く、とてもかわいい小鳥です。暖かい気候を好む渡り鳥なので、ロビンを見つけることは、これからどんどん暖くなる証拠です。

もう1つの好きな春の足音は、梅と桜です。花が咲く期間は短いですが、そのとても綺麗な花は魔法を見ている

ようです。アメリカにも梅と桜はありますが、数は少ないです。桜は、日本のシンボル。私の通っていた大学にも6本の桜の木が植えてありました。

アメリカに植えてあるほとんどの桜は、第二次世界大戦後に平和の象徴として、日本から贈られたものです。桜を見ると、平和と希望を感じます。私にとって桜は、春を感じるものの中で最も特別なもの。日本には、たくさんの桜があるので、今年も桜が咲く中、ドライブするのが楽しみです。

地域おこし協力隊活動日記

「1年間野菜の育て方を楽しく学びました」

地域おこし協力隊3年目
はやかわ ゆうこ
早川 優子



去年の4月から鬼北町農業公社の「鬼北おてがる農業倶楽部」を受講し、野菜作りをしています。

毎月の講習を受けながら、約1年間にわたり、たくさんの野菜や果物の育て方などを楽しみました。それぞれの育て方によって野菜の味も変わったり、種、土、肥料をこまめにチェックしたり、一緒に受講している方々と情報交換をするなど毎日が新鮮でした。最近の収穫では、1月にカボチャ、プチトマト、春菊、ほうれん草、白菜などを収穫しました。3月末でこの講習も終わってしまいますが、これからは、

学んだことを活かしてプランターなどを使って野菜作りを続けていきたいと思っています。

